

「ガイドライン」活用術



看護職のWLB

JR山形駅から徒歩5分と、山形市の中心部にある篠田好生会篠田総合病院。1918年の創設以来、訪問看護事業や在宅介護支援センター、認知症疾患医療センターなどの関連施設を設置し、地域のニーズに幅広く対応してきた。

「何でも屋」を返上 業務分担へ

2013年、同院はワーク・ライフ・バランス(WLB)推進ワークショップ事業が県看護協会が始まるのと同時に参加を決めた。69年に県内初の院内保育所を設けるなど、先進的な取り組みをしていたが「時間外勤務が多い」「休みが十分取れない」という職員の声もあった。

川窪のり子看護部長を中心に、まず時間外勤務の削減に向け各病棟で業務の洗い出しを行った結果、看護職が事務的な作業なども担う「何でも屋」になっていることが判明。薬剤部や医事課などに相談し、業務分担を進めた。

篠田好生会の事務部門を統括し、WLB検討委員会にも関わった佐藤英一事務局長は「看護職の負担軽減に向け、他の病院の事例なども紹介して他部門の理解を得られるよう働き掛けました。一つの部門が協力すると、良い前例となりました」と変化を振り返る。委員会の推進メンバーで、同院の労働組合委員長でもある高橋みさ子さんは「働きやすい職場をつくりたいの思いは一緒」と、組合に寄せられた意見を委員会で



制度改革

現場からのレポート No.53

医療法人篠田好生会

篠田総合病院

も共有し、調整に努めた。

看護部でも、正循環や連休を意識した勤務表を作成するようにした。連休の前には準夜勤や深夜勤を入れず、気兼ねなく休めるよう工夫。休日の回数は以前と同じでも、スタッフの満足度が高まったほか、1カ月の連休の平均取得回数も増えた。有給休暇の取得率も、それまでの2割から3割を超えた。

「メディカルフィットネス」という独自の試みも始めた。職員なら誰でも週2回、院内で理学療法士などリハビリ部門のスタッフによる個別診断や指導などを受けられる。参加者からは、受ける側と行う側、双方で知識や技術を確認することができ、部門を越えたコミュニケーションや新人教育の機会にもなったと好評だ。

取り組みを通じつながりも強く

さらに、最も力を入れたのが院内の制度改革だった。夜勤ができないことや採用時の年齢などから非常勤にとどまっていた職員も、正職員になれるよう枠を広げた。一方で、夜勤を月8回以上行う職員には別途、手当を支給するなど、個々の働き方に見合った処遇の改善を図った。

ケアワーカーについても、時給制のパート職をより安定した月給制の契約社員にするなど、看護職以外にも改善の動きが波及。制度の変更には経営陣の理解が必要だけに、組織一丸となつての取り組みが光る。同院では、この改革が職員のやりがいや定着率のアップのほか、求人の際のアピールにつながることを期待する。

WLBの推進を通じ、予想外の効果も見られ

■病床数	383床	【所在地】山形県山形市
■入院基本料	一般(10対1)	
■看護職員数	正規:135人(看115人、准20人) 非正規:44人(看35人、准9人)	
■平均年齢	40.8歳	
■離職率	13.2%(13年度)、11.3%(14年度)、15.2%(15年度)	



B検討委員会メンバーWLB中央が川窪看護部長

た。川窪看護部長は「業務分担やメディカルフィットネスを行ううちに、部門を越えたつながりが生まれました」と喜ぶ。日ごろから声を掛け合う雰囲気ができ、自然と連携が取れるようになったという。3年計画の推進事業は終えたが、地域のマグネットホスピタルを目指して今後も活動を継続する。

Q&A ナースのはたらく時間・相談窓口

相談

平成28年診療報酬改定で新設された「夜間看護体制加算」の算定のために、3交代勤務を16時間夜勤の2交代制に変更する病院方針が示され、どう対応すべきか迷っています。

回答

加算算定は、勤務体制を見直し負担軽減を進める好機です。しかし「看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」では勤務拘束時間の上限は13時間で、16時間夜勤の導入はお勧めできません。加算の算定要件では3交代は「正循環」の勤務編成が求められるため、加算を取りやすい2交代にするのだとすれば、新設の趣旨である「医療従事者の負担軽減」に逆行します。慎重な対応をお願いします。

<相談先> FAX 050-3737-2820

スタッフhataraku@nurse.or.jp 看護管理者time-q@nurse.or.jp

挑戦中：週末の連続休日 など

【看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン】は公式HPで公開中!